

予報1 大会山域について

今回の大会山域は脊振山脈の西側に位置する山域で脊振山脈縦走路の起点・終点となる。西側から主要な山頂は十坊山、浮嶽、女岳、羽金山、そして新人戦で登った雷山へと繋がる。この山頂の中の浮嶽と女岳そして脊振山脈から北側に位置する二丈岳が今回の大会山域である。最初に雷山より西側の山頂について説明する。

新春大会では登らないが大会山域の東側に位置する羽金山（はがね）山は標高900mで山頂及び三角点は、県境から約70メートルの佐賀県側にある。三角点の基準点名は、「羽金山」ではなく、「刃金山」となっている。また、山頂には、はがね山標準電波送信所があり日本には他に福島県の大鷹鳥谷山（おおたかどややま）にある。

浮嶽は標高805mあり今大会で最も高い標高となる。海から見ると浮いているように見える事から名づけられたといわれ、筑紫富士（つくしふじ）や男岳ともいわれている。山頂には浮嶽神社上宮があり周囲はスギに囲まれ展望はあまり望めないが北側が一部開けている。

二丈岳は旧二丈町の町名から名付けられ、頂上付近には戦国時代に二丈岳城と呼ばれた城があり現在も石垣が残る。頂上からの展望はすばらしく北側は糸島平野が見渡せ、さらに海の先には視界がよければ長崎県の老岐・対馬まで見える。

女岳は浮嶽の別名男岳に対して隣に見える山として女岳と名付けられたといわれている。標高は748mで荒谷峠と荒川峠の中央に位置し山頂付近には菊理媛命（くくりひめのかみ）の祠がある。

今回の大会山域ではないが脊振山脈の最も西側に位置する山である十坊（とんぼ）山は10人の僧侶の供養塔がある事から名付けられ、ここも展望は360度開けている。山頂には大岩があり坊主岩と呼ばれている。一番西側にあるので佐賀県唐津市を一望できる。

また、今大会の山域には神社も多くありコース中にも浮嶽神社上宮、白龍稻荷、加茂神社を通過する。ほかにも浮嶽神社や白山神社などがあり白山神社は縁結びで知られる神社で菊理媛命が奉られており、毎年5月には五穀豊穰、家内安全を祈願する福井神楽（ふくいかがら）という伝統芸能が行われている。

今回は別の登山ルートとしてJR筑前深江駅から出発し間に大入（だいにゅう）駅を挟んで福吉駅をゴールとするルートがある。JR筑肥（ちくひ）線でのアプローチがよく、多くの登山者に親しまれている。

今回の山域の中腹を通る広域基幹林道は唐津市七山と糸島市福吉をつなぐ白木峠から福吉方面に少し下った場所から始まり、展望が良い極楽（ごくらく）展望台・いきさん展望台・はる展望台のほかに景勝地である白糸（しらいと）の滝などを経て糸島市長糸と佐賀市富士町をつなぐ長糸峠まで伸びている。

深江駅付近にはラドンを含む天然温泉二丈温泉きららの湯、福吉駅付近には空海が湧き立たせたといわれるまむしの湯などの立ち寄り湯がある。

農産物では福吉で品種改良されたみかん「はるか」や、古代からの赤米に現代のモチ米をかけ合わせて「二丈赤米」、水産業では日本有数の真鯛の水揚げ量やカキ小屋が有名である。

山域を北に下るとすぐに海岸へとつながる地形となっている。この付近は砂浜が多く点在するがその中でも姉子の浜は鳴き砂といわれ、長さ1.1kmの海岸が弓状に広がっている。日本では島根県の琴ヶ浜、京都府の十八鳴浜（くぐなりはま）、宮城県の九九（くく）鳴き浜が三大鳴き砂といわれる。

2. 荒天対策について

1月25日に起こった場合

	地震（震度 5 弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報・雷注意報発表時
1月25日	大会中止・早期帰還準備	宿泊所待機・行動中止	通常行動
1月26日	帰宅完了	ルート短縮・行動中止	通常行動

1月26日に起こった場合

	地震（震度 5 弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報・雷注意報発表時
1月26日	大会中止・早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動

※上記以外でも現地の状況により安全最優先でコースの短縮や行動隊形の変更を行う可能性がある

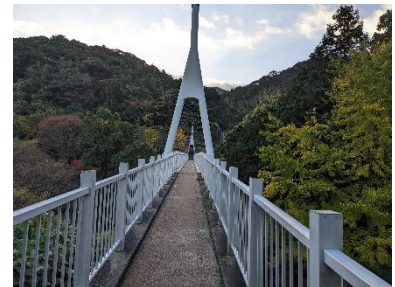
予報2 大会ルート

1日目

ゆらりんこ橋駐車場からスタートする。ゆらりんこ橋は加茂川の上流にかかる全長100mのつり橋で1本のワイヤーで吊るされている。周辺には春になるとさくら並木や菜の花畑があり観光客で非常ににぎわう場所である。橋を通過するとすぐに二丈溪谷遊歩道に入る。右側に溪谷を見ながら登っていく。植生はヤツデが特に目立っている。溪谷にはいくつかの滝があるがこのルートで最大の滝が明神の滝と呼ばれている。明神の滝を通過した辺りからアオキやスギの植林が目立ってくる。

遊歩道を登りきると加茂神社に到着する。ここからしばらくは右側の真名子（まなご）ダムに沿って砂利道を歩いていく。この区間はイロハモミジがあり紅葉の時期は見事である。右に大きく曲がる場所で林道一の原線が左側にあるが現在使用できない。そのまま道なりに進んでいくと数件の民家の前を通過した先に分岐があり、直進が真名子駐車場で左側が真名子登山口となるのでここを左折する。

登山道を登り始めるとアカガシやスダジイの自然林が最初現れ次第にスギの植林地帯となっていく。途中で林道を横断するとヒノキの植林地帯へと変わり林道を挟んではっきりと区別されている。時折露岩帯の中を通過しながら進むと広い開かれた場所に到着する。ここが林道終点であり分岐となっている。直進が二丈岳山頂で右の林道が木の香ランド方面になるので直進して登っていく。山頂付近は自然林もありマツやウリハダカエデ、サルトリイバラなど見られる。しばらく進むと山頂手前から最後の急登になる。ここを登りきると標高711mの二丈岳山頂に到着する。山頂からは360°の展望があり、西側には大会山城である女岳・浮嶽が見える。山頂をそのまま通過すると深江駅から登る北登山口方面へ向かうルートがあるが今回は山頂で引き返し林道終点までピストンする。山頂直下の急な下りは滑らないように注意して引き返していく



ゆらりんこ橋



二丈溪谷



林道終点

と先程の**林道終点**に戻ってくる。直進すると真名子登山口となるので今回はここで木の香ランドへと左折する。ここからは荒れてはいるが舗装道路となる。スギの植林の中フユイチゴも赤い実をつけている。また、アカメガシワやウラジロも点在している。このまま下っていくと周囲が開けて女岳が見えてくる。道の両側にはサクラ並木になっている。そのまま進んでいくと**木の香ランド**に到着する。入り口にはツクシシャクナゲが出迎えてくれる。

2日目

木の香ランドを右へスタートして下っていく。左側に溪谷を見ながらスギの植林に囲まれた車道を進んでいくと左に橋が見えてくる。この分岐が**つばき橋**である。直進が真名子駐車場方面であり左が女岳方面となるので左折してつばき橋を渡る。

そのまま林道を歩いていくと右側に女岳登山口の標識が立っているのでここから登山道に入っていく。スギの植林の林床にフユイチゴやウラジロ・マムシグサを確認しながら15分ほど進むと広域基幹林道を横断する。横断した先が**女岳北登山口**である。北登山口を通過したところから急登になるので滑らないように注意して進んでほしい。しばらく進んでいくと荒川分岐に到着し、ここからは脊振山脈の縦走路となる尾根を進む。左が荒川峠、右が女岳方面となっているので右に進む。縦走路からは傾斜も緩やかになり周りには大岩も点在している。山頂が近くなると自然林に囲まれてくる。まもなく標高748mの**女岳**山頂に到着する。ここからは北側の一部が開けており糸島半島を望むことができる。山頂にはリョウブ・ツゲ・カゴノキ・アカガシなどの樹木に出会える。

女岳山頂を通過するとそのまま西側の荒谷峠へ向かって高度を下げながら進んでいく。途中急斜面を下っていく場所があるので滑らないように注意してほしい。急斜面が終わると一旦平坦な肩を通過する。この肩付近から再び登山道の周囲がスギの植林とアオキに囲まれる。高度で200m程度下ると車道に到着する。ここからは今から登る浮嶽を正面に見ることができる。

車道は左右に分かれ左は佐賀県唐津市方面へ向かう道で右が浮嶽方面へとなるので右に進む。さらにすぐに左右に分かれている。右は広域基幹林道に通じる道となり、左が浮嶽方面になるのでここを左側に進む。車道を進むと間もなく右側の尾根線上から**浮嶽東登山口**の標識が現れるので、ここから再び登山道に入っていく。時期によっては草に囲まれて標識を見落としてしまう可能性があるので注意してほしい。最初は急登になっており木を支えにして登りたいがトゲがある木があるので注意して欲しい。この登山道もスギの植林地帯となり展望はほとんどなかったが伐採されている。作業用の道が出来ているので間違えないように進もう。ここから浮嶽山頂を目指すが途中先ほどの車道からの分岐点を



山頂直前の石垣跡



女岳北登山口



浮嶽東登山口手前の分岐
車道を左へ進む



伐採された登山道

数回通過する。登山道を歩いていくと鞍部付近で作業道路のため登山道が一度分断されるがそのまま直進する。さらに進むと再び車道が真横に見えてくる。ここからも登山道に入ってくる分岐がある。この分岐を通過した付近から大岩が姿を現してくる。また、登山道も急登になりロープが設置されている。前後の登る人の安全を考慮してロープの使用は避けるか、使用する場合は声をかけてから安全を確認して使用してほしい。

急登を進んでいくと**浮嶽南登山口分岐**に到着する。左は浮嶽南登山口方面へと向かい、直進が浮嶽山頂となるので直進する。さらに進むと右側に白龍稻荷神社経由する道と左に巻道の分岐がある。ここの分岐はすぐに合流するが左のほうが若干距離が長い分緩やかなので左を進もう。また、白龍稻荷の上には大岩がある。ここにくると展望がひらけているので下見の時には立ち寄って景色を眺めてほしい。登山道の林床にはシシガシラが確認できる。この後は先ほどの分岐点が合流してゆるやかな登りとなる。さらに進んでいくと展望岩と呼ばれる場所があり左側にベンチが設置されている。ここからは南側を見渡すことができる。山頂付近になるとシロモジやアカガシ等の自然林もみられる。山頂直前で左右に分岐がある。どちらも山頂にたどり着くが左は山頂の裏を通過して引き返す形になるので右に進もう。まもなく浮嶽神社上宮がある今回のルートで最高標高となる805mの**浮嶽**に到着する。山頂には山小屋もあり風をよけて休憩することができる。ここも展望はあまりひらけていないので、一息ついたら今来た道を引き返しピストンする。

浮嶽南登山口分岐まで引き返したらここから右へ曲り浮嶽南登山口へ向かう。こちらは緩やかな道でまもなく**浮嶽南登山口**に到着する。ここからは車道を歩いていく。登山道より距離は長くなるが停滞することなく進む事ができる。行きがけに通った浮嶽東登山口を通過し三叉路を鋭角に左に進む。すぐに車道を登りつめた所に到着するがここが**荒谷峠**である。通過して下っていくと再び三叉路となるが左前方に舗装されていない道があるのでここを下っていく。伐採された荒地を通過しながらどんどん下っていくと再び車道に合流する。左もゆらりんこ橋へと向かうが、右へ進み真名子駐車場へと向かう。真名子橋を渡ると左側に**真名子駐車場**が見えてくる。

ここからは1日目の逆ルートとなる。真名子登山口、加茂神社を通過して遊歩道を進んで行く。**ゆらりんこ橋駐車場**まで気を抜かず安全に注意してゴールまで歩こう。



伐採された北側の展望



浮嶽山頂



荒谷峠



車道合流地点右に進む